令和７年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「にじのきらめき」栽培暦

あきだわら・にじのきらめき生産者部会

月	４月					５月					６月					７月					８月					９月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定															-30		-20		-14	0								+44	

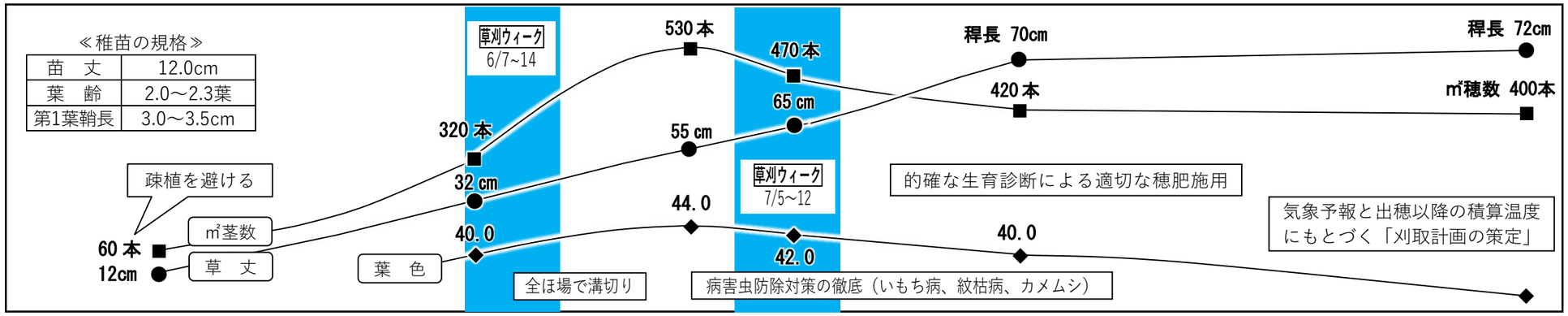
生育ステージ

種子消毒（温湯消毒）
↓
浸種開始　【作業目 4月 8日】
↓
催　芽　4月18日
↓
播　種　4月20日
播種量の目安:150g／箱

育苗日数は２０日程度 → 田植え 5月10日～

≪稚苗の規格≫

苗　丈	12.0cm
葉　齢	2.0～2.3葉
第1葉鞘長	3.0～3.5cm



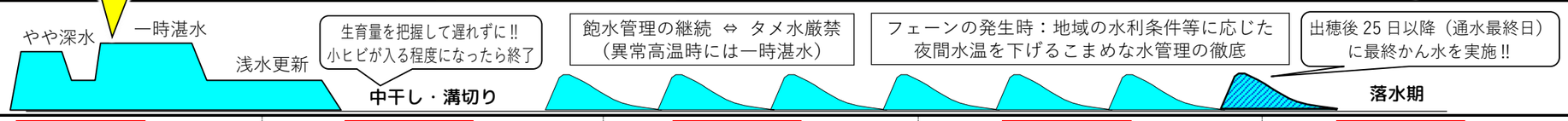
中干し開始 6月10日～ | 最高分げつ期 7月1日 | 1回目穂肥 7月6~11日 | 2回目穂肥 7月22日 | 出穂期 8月5日 | 収穫期 9月18日～

病害虫防除

【いもち・紋枯病予防】ルーチンブライト箱粒剤 播種時～移植当日 | 除草剤散布 | “補植苗”を早期に撤去する | 6月中下旬～葉いもち病 { 早期発見 早期防除 | 紋枯病 本田防除 | 【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期 | 稲わら秋すき込み

水管理

・田植後→3～4cmのやや深水で植え傷み回避
・活着後→2～3cmのやや浅水で早期分げつ促進
・除草剤散布時→湛水状態(水深5～6cm)で散布
・中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止



栽培管理のポイント

Point 1
～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成
② **土壌診断結果にもとづく土づくり資材（有機質・ケイ酸）の施用**
③ 作土深15cmの確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥
→基肥N施肥量のめやす：「10a当たり8.0kg～9.0kg」

Point 2
～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育を促進
② 田植期のめやすは５月中旬
・栽植密度：60株／坪
・植付本数：3～4本／株
・植付深さ：2～3cmの浅植え
③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除（箱施用剤）を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point 3
～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 田植30日後をめやすに目標穂数の80%（320本/㎡＝1株あたり17本）を確保してから→適期中干し開始
② **全ほ場で溝切り（10条：３mに1本）→速やかなかん水・排水管理**
③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4
～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① **いもち病・紋枯病の早期発見～早期防除（こまめにほ場巡回）**
② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）
③ **出穂後２５日以降に最終かん水を入水（落水は出穂28日以降）**
～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point 5
～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① **穂肥は出穂30～25日前と14日前の２回に分けて施用**：出穂期まで葉色40以上（SPAD）を保つ→施肥量のめやすは、1回目：2.0kg～3.0kg、2回目：0kg～2.0kg、2回合計2.0kg～5.0kg／10a
② 1回目穂肥に重点を置く
③ 急激な葉色低下（SPAD40以下）がみられた場合は追加穂肥を施肥

Point 6
～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① **出穂後の積算気温：1100～1200℃を参考に籾の黄化率（90%）を確認して適期に収穫する**
② 胴割粒の発生防止：刈遅れに注意～籾水分の確認による適正な乾燥温度速度で急激に乾燥させない→高品質米に仕上げる
③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み

《施肥のめやす》　（成分 kg／10a）

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後	―	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材
基　肥	～田植え	8.0 ～ 9.0kg	地力に応じて
穂肥１	出穂30~25日前	2.0 ～ 3.0kg	遅れずに施肥～籾数確保
穂肥２	出穂14日前	0 ～ 2.0kg	しっかり施肥～登熟向上
合　計	―	10.0~14.0kg	＊一発基肥 トータルN：9.0~12.0kg

《生育のめやす》

生育ステージ	時期	草丈（㎝）	茎数（本/㎡）	葉色（SPAD）
1回目穂肥	7/6~11	60~65	500	40~43
2回目穂肥	7/22	-	-	
出穂期	8/5	70（稈長）	420（穂数）	40

《品質向上・収量確保目標》

玄米1等級比率	90%以上
10a当たり収量	650kg

《品種特性》

早晩性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
中生	強	中	やや強	やや弱

《収量構成要素》

収量（kg/10a）	1穂籾数（粒）	穂数（本/㎡）	㎡籾数（百粒）	精玄米粒数歩合（%）	千粒重（g）
650	80~82	400	320~330	85%	23.5